

屋上の有効活用  
していますか？

夏季は、太陽熱によるコンクリート建物への影響は大きく、特に屋上のコンクリート表面温度は日中50~70℃まで上昇します。そこで、屋上を緑化することで太陽熱の建物内侵入を低減できます。また、冬季は夏季とは反対に熱が逃げるのを防ぐため、暖房効率も上がります。屋上緑化の効果は、省エネにとどまらず、都市のヒートアイランド現象の緩和にも役立ちます。

対策例

屋上緑化前



屋上緑化後



システム導入のポイント

- ① 大量に土を入れることにより屋上の荷重が増し柱や梁に負担が掛かり、亀裂や防水切れなどを生じることがあります。
- ② 低木など樹木を植えた場合、根っこが屋上床保護モルタルの目地などに入り込み床を持ち上げたり、場合により防水を切ることもあります。
- ③ 枯葉や土壌の流れ出しにより排水金物に目詰まりを起こすので、定期的に清掃が必要となります。
- ④ 自治体によっては補助金制度を設けている所もあり、申請することにより、緑化面積等に応じた助成金を受けられます。

参考資料



屋上緑化